

漢字学習、作文指導について

テーマ	漢字を楽しく学ぶために。 作文、思ったことをどんどん書こう
教科	国語(漢字、作文)
参考文献	「チャレンジ! 漢字遊び」監修 櫻本喜徳／文・神林京子 ポプラ社 「漢字大研究」監修 櫻本喜徳／文・高橋美和子 ポプラ社 「どんどん好きになる国語の本」坂本光男著 大目書店 「記号の図鑑①ことばの記号」江川清／大田葦夫・編著 あかね書房 「下村式 となえて書く漢字練習ノート」下村昇・著 まついのりこ・絵 偕成社 「小学 新漢字字典」監修 鯉坂二夫 全家研 「作文力をつける中・高学年用」樋口裕一著 学研

<漢字学習を進めるに当たって>

小学生、時には中学生の中にも、『漢字は必要ない。全部ひらかな(片仮名)ばかりだと、どんなに文章が読みやすいか。』という子ども達がいる。そのような時には、次の様な例を挙げてみる。

「きょうはいしゃにいく」(句読点をわざと省略しているので大変読みづらい。
二通りの解釈が可能)

<漢字を使用してみると>

きょうはいしゃにいく	①「今日は医者に行く」
	②「今日歯医者に行く」

伝えたい内容が①なのか②なのかすぐわかる。
また、次の2つの文を読み比べてみてもらう。

下の文では漢字をつかっていて、書き表された意味が、すぐ頭に思い浮かぶようになっている。

ははははがいたい
母は歯が痛い

・これらの文から、いかに日常生活に漢字が必要かつ便利で大切なものなのかを認識してもらう。

<漢字を覚えるコツ>

文脈や文章の流れに沿って覚える。

性質や特徴をつかむ

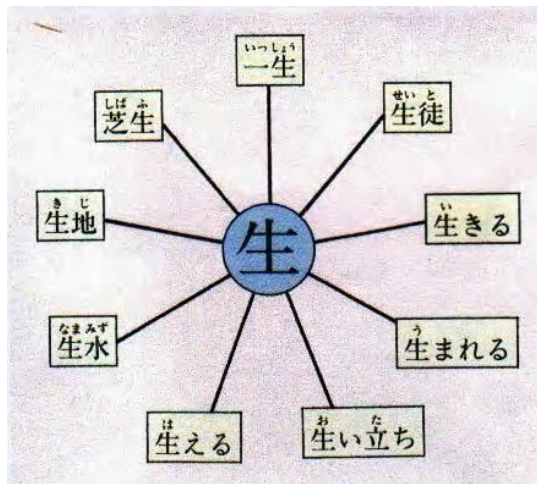
一つ一つの漢字について、小学生向けの漢字字典等を使用し、部首・総画数・読み方・書き順・意味等を調べる。

漢字の読み方

音 —— 中国から伝わった漢字の発音

訓 —— もともと日本にあった言葉を中国からきた漢字にあてはめたもの。

ひとつの漢字でも、こんなに読み方がある。



聞 (きこ) 耳(みみ) 14画 おん ファン・モン
①きく。きこえる。②うわさ。ひょうばん。形のにた字。問(あいだ・ま・カン・ケン) 聞(ひらく・カイ) 「問・聞」は門(もん)がまえの字。問は耳(みみ)の字である。
「聞き手」聞(き) + 手(て) 「見聞」見(み) + 聞(き) 「新聞」社(しゃ)にきたたき事(こと)を、早く(はや)伝える(とづ)る。いんさつ(印刷)物(ぶつ)。
「聞こえ」ひょうばん。
「か」をひくのかぜは、「風」ではないので軌(き)をつけること。
「かぜをひくのかぜは、「風」ではないので軌(き)をつけること。
「かぜをひくのかぜは、「風」ではないので軌(き)をつけること。」
「かぜをひくのかぜは、「風」ではないので軌(き)をつけること。」
「かぜをひくのかぜは、「風」ではないので軌(き)をつけること。」

読み、書きを繰り返し練習する。

漢字と読み	書きかたの練習
<h1>痛</h1> <p>12画 疒(いまだれ)の部 くん いたむ・いたい おん ツウ</p>	<p>痛 ▶ 痛 ▶ 痛 ▶ 痛 ▶ 痛</p> <p>てん ニ ノをかき ンをつけ マをかいたら 痛をかく</p> <p>痛痛痛痛</p>
<h1>疑</h1> <p>14画 疒(いまだれ)の部 くん うたがつ おん ギ</p>	<p>疑 ▶ 疑 ▶ 疑 ▶ 疑 ▶ 疑</p> <p>ヒに ニで 犬をかき マに フで 入をかき たて よこ</p> <p>疑疑疑疑</p>
<h1>頂</h1> <p>11画 頁(えん)の部 くん いただぎ・いただく おん チヨウ</p>	<p>頂 ▶ 頂 ▶ 頂 ▶ 頂 ▶ 頂</p> <p>よこ たてはねて ニ ノ 白ハ</p> <p>頂頂頂頂</p>
<h1>看</h1> <p>9画 目(め)の部 くん — おん カン</p>	<p>看 ▶ 看 ▶ 看 ▶ 看</p> <p>ノをかくて よこぼつえま ノをたてて たてぼう かぎで よこさま</p> <p>看看看看</p>

なりたち	読みかたと書きかたの同題
<p>ヨ ▶ ナ ▶ 疒</p> <p>人が病気になるって、わている形。</p> <p>疒 ▶ 疒 ▶ 痛</p> <p>人が、痛にくぎをつきおしている形。</p> <p>病気になるって人が、くぎをさされたようにいたがることから(いたむ・かなむ)の意味。</p>	<p>()</p> <p>背中がぞくぞくして、頭痛がする。</p> <p>腕や足の関節も <input type="text"/> むから、インフルエンザかな。</p> <p>予防注射の大切さを、今になって <input type="text"/> 感している。</p>
<p>大 ▶ 大 ▶ 疑</p> <p>人が立ちどまって、きよるきよる疑まわす形。</p> <p>疒 ▶ 疒 ▶ 疑</p> <p>子どもの形と、疑の形。</p> <p>子どもが立ちどまって、きよるきよる疑まわすこと(まよう・うたが)の意味。</p>	<p>()</p> <p>ぼくは、雪男がいるかどうか疑間に思っている。</p> <p>よく見つかるという足跡も、<input type="text"/> う人はかなり多い。</p> <p>歩いている姿の写真は、特に <input type="text"/> 惑の目で見てしまう。</p>
<p>冫 ▶ T ▶ 丁</p> <p>物があるれ出る形で、もりあがること。</p> <p>頁 ▶ 頁 ▶ 頁</p> <p>人の顔の形。</p> <p>頭のいちばんもりあがったところのこと(いただぎ・ものいちばん高いところ)の意味。</p>	<p>()</p> <p>最後の坂を上りきって、山の頂上に着いた。</p> <p>遠くに、雪を <input type="text"/> く富士山が見える。</p> <p>歩きつばなしで、空腹も <input type="text"/> 点に達していた。</p>
<p>手 ▶ 手 ▶ 手</p> <p>手の形。</p> <p>目 ▶ 目 ▶ 目</p> <p>目の形。</p> <p>(ある)という意味の字 見る・見る・見る・見る・見る</p>	<p>()</p> <p>母は、いつもより早めに看板をしまった。</p> <p>発熱で苦しむ妹を、一晩じゅう <input type="text"/> 病した。</p> <p>懸命な <input type="text"/> 護のおかげで、翌朝には熱は下がった。</p>

<漢字の成り立ち 「六書」を楽しく知る>

漢字は三千年以上も前に、中国で作られ、日本に伝わってきた文字。
表意文字。

- 「六書」
- ① 象形 ② 指示 ③ 会意 ④ 形声 文字
(漢字の作り方に関する原則)
 - ⑤ 転注 ⑥ 仮借 文字
(漢字の使い方に関する原則)

1 絵の様に書いた漢字 —— 象形文字

中国の人々が、まず漢字を作る時、絵のように、ものの形をかたどって表すことから始めた。

・絵を見て漢字が身近で親しみやすいものであることを知る。



2 しるしからできた漢字 —— 指示文字

・書きにくいことや、ものの性質を、線や点のしるしや記号でさす。

● → 上 ● → 下

3 意味と意味でできた漢字 —— 会意文字

漢字を2つ以上組み合わせることで、ほかの意味の新しい漢字が生まれる。

「口」+「鳥」 → 鳴

「田」+「力」 → 男

「人」+「木」 → 休

☆それぞれのカードをバラバラにしておいて、組み合わせるゲームをしてみるのも、おもしろい。

4 意味と音でできた漢字 —— 形声文字

漢字全体の90%が、この形声文字。

音をあらわす部分		意味をあらわす部分		漢字	解説
反	+	木	→	板 いた	「木」は、樹木や木製品にかんする意味をあらわす。
反	+	食	→	飯 めし	「食」は、食物にかんする意味をあらわす。
門	+	口	→	問 と(う)	「口」は、口や音声、ことばにかんする意味をあらわす。
早	+	艹	→	草 くさ	「艹」は、草などにかんする意味をあらわす。

5 既にできている漢字の、もとの意味を発展させて、別の意味に使うというやり方 —— 転注文字 「好」→「女」お母さんが、「子」どもを可愛がること

6 意味に関係なく、ある漢字の音だけ借りてつかうやり方 —— 仮借文字

日本で作られた漢字

漢字はむかし中国から伝わりました。しかし、すべての漢字が輸入品というわけではなく、日本で作られた漢字もかなりあります。このような国産の漢字のことを「国字」といいます。たとえば、「峠」という漢字がそうです。「とうげ」は、山に上ってまた下る分かれ目の所ですから、この字が作られました。草木を焼いて作る「畑」も国字です。



働 = 「人 + 動」 (人が動く意味) はたらく	凵 = 「風 + 木」 (風が木をふきぬける意味) こがらし
辻 = 「道 + 十」 (道が十文字に交差する所の意味) つじ	凵 = 「風 + 止」 (風が止まる意味) なぎ
霽 = 「雨 + 下」 (したたる雨水の意味) しずく	躰 = 「身 + 美」 (身だしなみを美しくととのえる意味) しつけ

<部首に注目！ —— 便利な漢字の七つ道具 ——>

- ・部首の位置を覚えておくと、漢字のつくりがすぐにわかる。
- ・子どもが、漢字を思い出せないでいる時、特に「へん」や「つくり」「かんむり」等のヒントを言ってあげると、書ける場合が多い。

▼それぞれ一画しかのせてありません。

	部首とその名前	あらわす意味	例
へん	亻 (にんべん) イ (ぎょうにんべん) 扌 (てへん) 氵 (さんずい) 土 (つちへん) 木 (きへん) 言 (ごんべん) 日 (にちへん) 钅 (かねへん)	人間の状態・動作 道・(道を)行くこと 手の動作 水・川の流れ・海 地面・土 木・木で作った物 ことば 日・時間・明暗 金属・鉱物	休む・体・使う・仲間 後ろ・徒歩・往復・従う 指・持つ・投げる・技・探す 波・湯・湖水・泳ぐ・流れる 場所・坂・境・城・区域 林・柱・橋・植物・材木・机 国語・話す・読む・詩・説明 晴れ・曜日・時刻・暖かい 銀・鏡・銅・一銭・鉄鋼・針
つくり	力 (ちから) 刂 (りっとう) 凵 (あくび) 阝 (おおざと) 頁 (おおがい)	力・働き 刀・切ること 口の開閉 町や村・田 頭・顔・人の姿	動かす・助ける・効果・勤務 一列・別れる・時刻・割れる 歌う・歓喜 都会・郡部・郵便・故郷 頭・顔・願い・額・頂点
かんむり	宀 (うかんむり) 艹 (くさかんむり) 竹 (たけかんむり) 雨 (あめかんむり)	すまい・屋根 草 竹・竹で作った物 雲・雨・気象状態	家・室内・客・守る・安心 花・葉・薬・苦勞・芽・野菜 計算・筆・節・管・笛・筒 雲・雪・電気・雷・霜

かまえ	凵 (くにがまえ) 匚 (かくしがまえ) 門 (もんがまえ) 气 (きがまえ)	かこむこと・かこみ おおう・かくす 入り口・外がこい 蒸気	国・回る・公園・固い・困る 医者・区 人間・開ける・関所・閉める 気候
たれ	宀 (まだれ) 疒 (やまいだれ) 尸 (しかばね)	屋根・家・建物 病気・傷害 人体・家屋	店・広い庭・車庫・底・政府 病・痛い・疲れる・治療 屋根・住居・高層ビル・展望
あし	心 (こころ) 灬 (れんが)	人間の心 火・熱	悲しい・意見・想像・忘れる 点火・熱い・照る・熟す
によう	辶 (しんによう) 走 (そうによう)	道路・行く・進む 走ること	遠い・通る・追う・速い 起きる・超人・越える

・部首探しのゲームなどをするのもおもしろい。

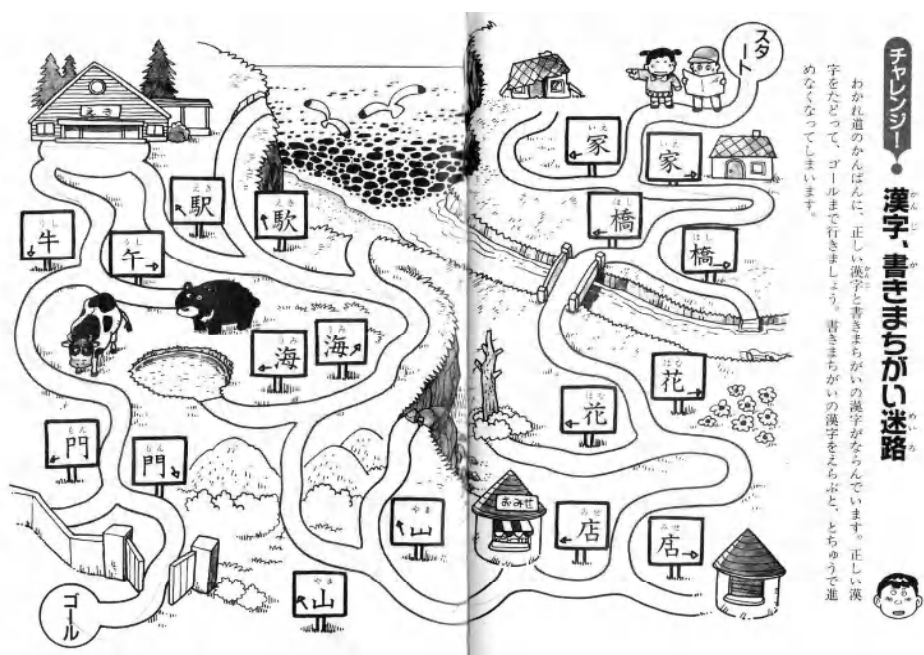


<似たような漢字に気をつけさせる。>

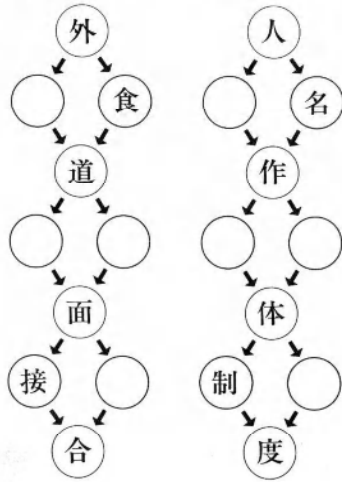
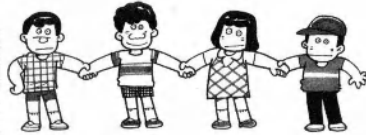
(例)

貝—見 若—苦 夫—天 池—地—他

<漢字を使った色々なゲーム等をして、とくかく興味を持ってもらうことが大切>



*四年生の漢字 五年生の漢字 新別荘



矢印の方向に、熟語のしりとりにしていきます。ふたつに分かれても、ちゃんと同じ漢字につながるように、じょうずに漢字を入れてね。

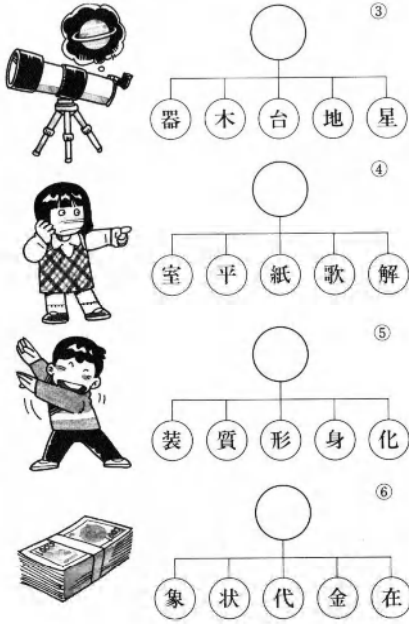
チャレンジ！**お母さんお父さん**の熟語しりとり



矢印の方向に、熟語のしりとりにしていきましょう。あいているところに、漢字を入れてください。ぐるりとひと回り、できるかな？

チャレンジ！お母さんは、だあれ？

*四年生の漢字 特殊形態定数 五年生の漢字 解題状況 六年生の漢字 表



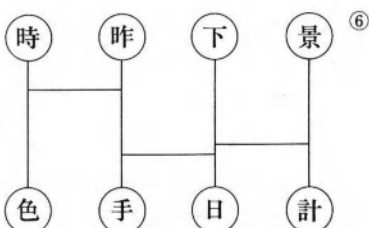
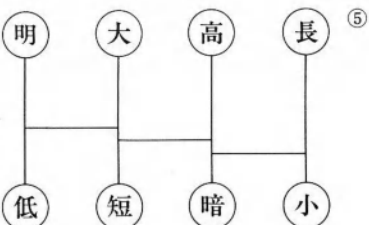
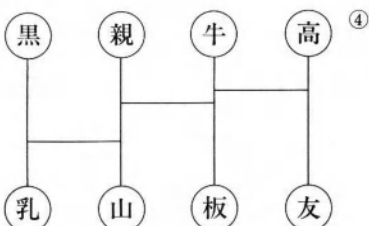
チャレンジ！**お母さんお父さん**の漢字



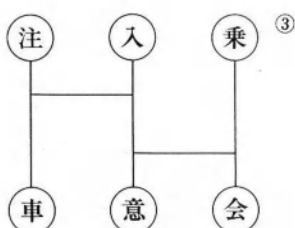
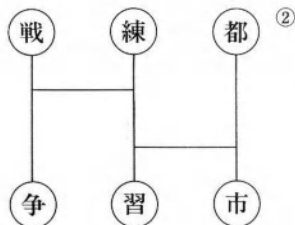
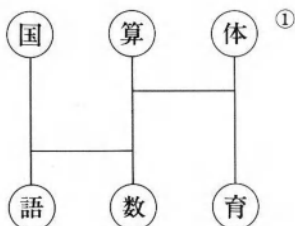
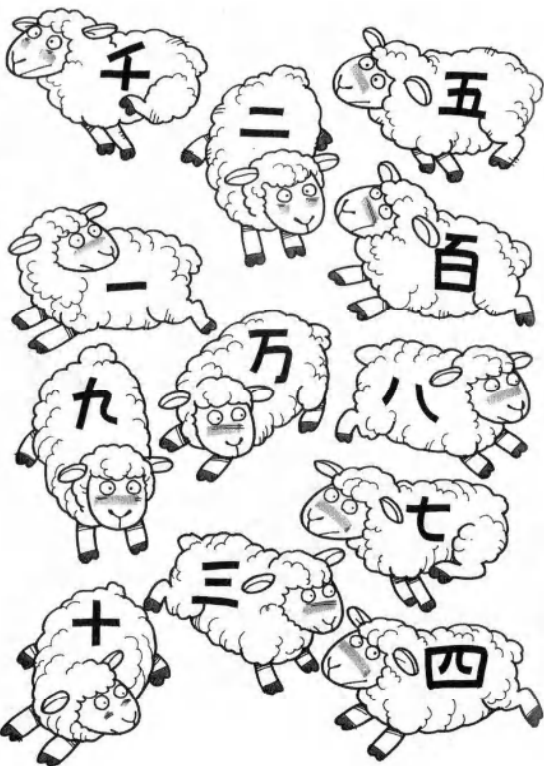
ここでは、お母さん漢字をさがしましょう。こどもの漢字と組み合わせさせて、一字熟語をつくる○の漢字は？ヒントの絵を見ながら、考えてね。

チャレンジ！ 熟語あみだくじ

* 四年生の漢字 戦争低登降 六年生の漢字 乳



* 四年生の漢字 東不議定別 六年生の漢字 拾



チャレンジ！ 熟語あみだくじ

上の漢字と、下の漢字が熟語になるように、あみだくじに横線をくわえてください。横線は、たての線とたての線のあいだに一本ずつ入れます。①③のあみだくじには合計二本、④⑤⑥のあみだくじには合計三本の横線を入れます。



チャレンジ！ 数字の大脱走！

あれ、あれ？ 四字熟語から、数字が大脱走。これでは、なにがなんだかわかりません。にげた数字をつかまえて、もとの場所にもどしてください。

- | | | | | | |
|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|
| ⑥ | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| <input type="checkbox"/> 不
思
議 | <input type="checkbox"/> 捨
入 | <input type="checkbox"/> 寒
温 | <input type="checkbox"/> 東
文 | <input type="checkbox"/> 一
石
鳥 | <input type="checkbox"/> 部
始
終 |
| ⑫ | ⑪ | ⑩ | ⑨ | ⑧ | ⑦ |
| <input type="checkbox"/> 千
差 | <input type="checkbox"/> 客
万
来 | <input type="checkbox"/> 百
発
中 | <input type="checkbox"/> 人
十
色 | <input type="checkbox"/> 十
中
八 | <input type="checkbox"/> 四
苦
苦 |



楽しく作文を書くために

<作文の力のつけ方>

1 まず、書きたいこと

・「何が書きたいか」をまず自分ではっきりさせる。

2 感動・主張を浮き立たせる

・感動したことや主張したいことを浮き立たせるように、内容の組み立て(構想)を考えること。

3 ありのままの心と姿を描く

・書く人の心が素直に表されているということ

<原稿用紙を用いて —— 書き方のルールを覚えよう>

- ① 書き出しは一字さげる。
- ② 句読点は一マスにいれる。
- ③ 「 」も一マス用いる。
- ④ 会話の部分は行変えをする。
- ⑤ 「です・ます」と「だ・た」をごちゃ混ぜにしない。
- ⑥ 長い文章のときは、段落分けをする。

<作文の書き方のヒケツ>

ステップ1—— 短い作文をクリア

ステップ2—— 長い作文をクリア

ステップ3—— もっと長い作文をクリア

(構成は —— 「起承転結」



「ホップ・ステップ・ジャンプ・着地」を守る！！

以上のような決まりはありますが、
まずは、自由にどんどん書いてもらうことが大切です。

以上